

てんじんこう お天神講

学芸員として着任してから3度目の冬を迎えました。私が明野で最初に見学した行事が「お天神講」でした。一昨年は上神取、昨年は浅尾新田、今年は北組の「お天神講」を見学させていただきました。それぞれの地区の皆さん、ありがとうございました。(内海)

明野町の多くの地区では、12月25日前後の休日に「お天神講」が催されます。「お天神講」は子ども達による行事で、勉学の向上を祈るために行います。「天神」とは天神様、つまり菅原道真のことを指し、道真が学問に優れていたということから、学問の神様として全国でまつられています。

お天神講では、各地区の公民館に小中学生が集まり、「天満天神宮」という言葉を習字で書きます。書き方は地区によって様々で、私が見学させていただいた上神取では一人一文字ずつ書いて言葉を完成させ、浅尾新田では一人一筆ずつ書いて言葉を完成させ、北組では一人一文字ずつですが、小学生は平仮名で、中学生は漢字で書きます。地区によっては中学生が小学生に指導するなど、子どもも主導で習字が書かれる地区もあります。書いた習字は、地区にある天神社の石祠に奉納して、子ども達は学問の向上を祈願します。習字を書く前後にはカレーを食べたり、ゲーム大会をするなど、子ども達のお楽しみ会的要素も加わっています。かつては「お天神講飯」と言って、野菜などの具材を炊き込んだごはんを食べたそうです。

保護者の方から、子どもの頃に経験したお天神講の話をうかがったのですが、遅くまで友達と遊んでいても何も言われないお天神講の日は、今も昔も子ども達にとって楽しい行事だったようです。



上神取(H18年)



上神取(H18年)



新田(H19年)



上神取の奉納



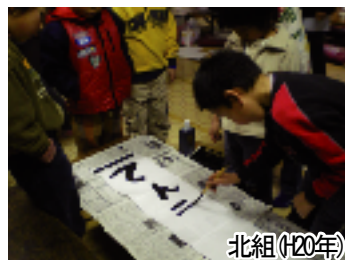
新田の奉納



新田(H19年)



北組(H20年)



北組(H20年)



コラム

菅原道真とは？



菅原道真の画像 (北野天満宮)
調べ学習に役立つ 図解日本の歴史2 より

平安時代の学者、政治家。宇多天皇のもと右大臣まで昇るが、次の醍醐天皇の時代、左大臣藤原時平の企てにより福岡の大宰府に左遷される。延喜3年(903)の道真の死後、都に災いが続く、それらは道真の祟りだとされた。延長8年(930)には清涼殿に落雷があり、そこから道真の霊は雷神と結びつけられ、火雷神という地主神が祀られていた京都の北野に、北野天満宮を建立して道真の祟りを鎮めようとした。ここから「天神信仰」が全国に広まる。道真が葬られている地の大宰府天満宮は、北野天満宮とともに、全国の天満宮の総本社である。時代を経るにしがたい、道真が生前優れた学者であったことから、天神は学問の神として信仰されるようになり、そこから現在の「お天神講」が生まれた。

神様には、それぞれ特定の由緒ある日があり、これを「縁日」と言う。その日に参詣をすると特にご利益があるとされる。天神の縁日が25日のため、「お天神講」は25日に行われる。

